

— 上智大学 —

2月4日 経済学部 国語

解答

一

問一 c、e 問二 d 問三 b 問四 c 問五 b
問六 d 問七 a 問八 c 問九 b 問十 a、d

二

問一 b 問二 d 問三 a 問四 b 問五 d
問六 e 問七 c 問八 a 問九 b 問十 d

三

問一 a 問二 b 問三 c 問四 b 問五 b
問六 d 問七 a

その他の大学・学部の解答解説はコチラ！

[増田塾 2019 解答速報ホームページ](#)



早慶上智・GMARCH・関関同立などをはじめとした難関大学の解答解説を随時公開していきます！

解 説

□

※説明の際は本文全体を通しての行数で「○行目」という形で説明箇所を示していく。この大問□本文は A が全 36 行、B が全 19 行となっている。設問の問一～問七は A 文、問八～九は B 文における行数とする。

問一

上智大学を受験する生徒であれば、「演繹法」と「帰納法」は知っていなければならない現代文用語である。本文の中では 4 行目「普遍的題から～個々の定理を導き出す」が「演繹法」の説明としてわかりやすい。この内容に対応するのは c と e であり、この 2 つが正解。e はいわゆる「三段論法」であるが、三段論法は演繹的推論を具体的に定式化したものである。ちなみに、a と d は帰納法、b は一見演繹法に見えるが前半部分が「普遍的命題」とは言えないので除外すべき。

問二

傍線部 2 直前に「結論は前提のうちすでに暗示的に含まれていたものを明示的に取り出したもの」と書かれている。これに最も近いのは d で、これが正解。a は「幾何学的証明にのみ必要」という限定が 2、3 行目「演繹法」の「典型」が「幾何学的証明」だ、という内容が矛盾するので×、b は「前提との関係が必然的でない」が本文 5、6 行目「前提が正しければ、結論は必ず正しい」と矛盾するので×、c は「演繹法」ではなく「帰納法」の説明になっているので×。

問三

空欄 X の説明は、直前「有限から無限への推論」、空欄の次行 17、18 行目「帰納的論証の結論は～蓋然的な主張にとどまる」に書かれている。つまり、有限の観察的事実をもってすべてに当てはまる(=普遍的である)と判断してしまう、ということ。ここには論理的飛躍があるとわかるので、正解は b である。空欄 X は「帰納法」の説明なのだから、a は真逆で×。c 「幾何学的証明」は 2、3 行目より「演繹法」の典型なのだから×。d は 15 行目より「帰納法」の前提となるものであるから×。

問四

傍線部 4 の理由は、傍線部直前に「科学理論を構築する基盤である帰納法が蓋然的な結論しかもたらさない」、20、21 行目にも「原因と結果の結びつきは～『心の習慣』にすぎない」と書かれている。この内容に最も近いのは c で、これが正解。「蓋然性」は「確からしい」という意味なので c の「正当な根拠がなく」と対応する。a は「演繹法」の説明なので×(ヒュームが科学知識を疑ったのは、科学理論の基盤が帰納法だからである)、b も「その結果得られる個別的命題」が 4 行目より「演繹法」の説明なので×、d は 35、36 行目に書かれてはいるが、傍線部と直接因果関係(理由)としてつながる内容ではないので×。

問五

傍線部 5 直後に「科学が経験科学である限り～演繹的論証のみに頼ることはできない」とある。「演繹のみに頼ることはできない」ということは「帰納法が必要」ということである。つまり「経験科学には帰納法が必要だ」ということになる(設問でも「帰納法なしで済ますわけにはいかない理由」＝「帰納法が必要な理由」があきらかに問われている)。「帰納法が必要だから」と言っている選択肢は b だけであり、これが正解候補。さらに b 前半は本文 7 行目(傍線部 2)に、b 後半は 10 行目に書かれており、内容面でも正しい。よって b が正解。a は「帰納法」の「不十分さ」を説明しているだけで「帰納法」が必要であることの理由になっていないので×、c は「演繹法だけでは」「蓋然的主張を～導くことができない」という意味になるが、これでは「帰納法ならば蓋然的主張を論理的に導ける」ことになってしまい、10、11 行目、また 17、18 行目に矛盾するので×、d は単に「帰納法」の説明をアリストテレスの引用で示しただけで、「帰納法が必要」という説明になっていないので×。

問六

傍線部 6 の説明は 29、30 行目「自然界を観察して～繰り返されると考えてよい」、30、31 行目「自然は統一ある秩序～妥当な結論を導く」に書かれている。この 2 つの内容に最も近いのは d であり、これが正解。a 「どのような条件下でも同一の現象が～生じる」、c 「現象が一様に生じている」が 29、30 行目「同じような状況のもとで一定の現象～繰り返される」と矛盾するので×、b は「蓋然的結論を支持している」が×。傍線部 6 「自然の斉一性」とは、帰納法が蓋然的結論しか導けないとなると科学の信頼性が落ちるので、自然の斉一性によって帰納法が十分に信頼できるものだ、と説明するためのものである。「蓋然的結論を支持する」では信頼性が低いままでよい、ということになってしまう。

問七

空欄 Y 直前の「帰納法の妥当性を保証する～ために帰納法を必要とする」より、正解は a の「循環論法」。「循環論法」とは、「証明すべき結論を前提に用いる論法」のこと。上記の通り「帰納法を保証するために帰納法を必要とする」のは「循環論法」に陥っている。

問八

「帰納法」から「演繹法」へ＝「個別→普遍」から「普遍→個別」という流れが正しく書かれているものを選ぶ。a は半ばあたりの「帰納法によって必然的に導く」が×。「帰納法」は「蓋然的」なものである(必然的なのは「演繹」)。b は後半の「演繹法によって新しい知識を獲得」が×。これは「帰納法」の説明である。c は「帰納法」を「観察→普遍」、「演繹」を「普遍→個別」と正しく説明しており、これが正解。d は半ばあたりの「帰納法によって普遍的命題から個別的命題を導き出す」が×。これは「演繹」の説明である。

問九

傍線部 9 「仮説」の説明箇所は、16、17 行目「予測のつかない～仮説が反証される可能性は常に残っている」、18、19 行目「科学理論や科学法則は永遠に『仮説』の身分にとどまる～身をさらしている」である。さらに 17、18 行目「自然科学の法則に数学や論理学と同等の論理的必然性を求めることは無いも

のねだり」より、「自然科学による仮説」は「数学や論理学」と対比的であることもわかる。以上の内容に最も近いのはbであり、これが正解。aは「仮説演繹法」の説明として「演繹によって～」と演繹のみにしか触れていない点で×。5行目以降にあるように(1)～(2)は「帰納法」であり、これに触れずに(2)～(3)「演繹法」に進むことはできない。cは「仮説演繹法」を「数学や論理学の定理に対しても～」と並列的(つまりイコールとして)ととらえている点が17、18行目と矛盾するので×。dは後半の「実験による検証」を「不必要」としている点で×。「仮説演繹法」には8行目(4)にある通り「実験的検証」を含み、そもそも5、6行目にある通り(1)(2)は「帰納法」を前提にしているのだからd後半はおかしい。

問十

aはA文35、36行目より合致しない。正解の1つはaである。bはB文11、12行目より正しい。cもB文17、18行目より正しい。dはB文2、3行目より合致しない。これが正解の2つ目。eはA文10、11行目より正しい。よって正解はaとdである。

□

※説明の際は本文全体を通しての行数で「○行目」というように説明箇所を示していく。この大問□本文は全43行となっている。本文は文語文であるが、この解説では根拠となる部分の行数を示したうえで現代語訳して説明していく。

問一

傍線部1「半人というべき」理由はまず同段落の後続の文にある。まず、直後の文に「我が『半人』を尋ねて之と廻り合ひ、以て『全人』を完成せんことに在り」とあり、4行目の「半人を自覚したとき＝恋愛をしたとき」より、恋愛をして、愛するもう半分の人(=半人)と出会うことができ初めて「全人」となれるから、である。この内容に最も近いのはbであり、これが正解。aは1行目に書かれてはいるが性別の話のみの表面的内容である。また、36行目に、「其の互に理想を『半人』に求むることに於て自己の向上発展を成就し、其の汚醜なるもの漸く消えて、日に光明の新境に進むことを得ん」とある。したがって、全人を完成するためには、己を補完する異性ではなく、異性との恋愛によって「自己の向上発展を成就」することが必要なのである。したがってaは正しくなく、やはりbが正解である。cは「半人」と「全人」の対比を「苦しみ悲しみ⇔楽しみ」(「楽しみ」は明記されていないが、論理的に対比内容をとらえて類推すれば判断可能)と取り違えているので×、dもcと同じく「心理・感情⇔行為・行動」と取り違えているので×。難解な設問である。

問二

傍線部2直後、5、6行目に「神が(愛する)半人の生き生きとした姿を心に刻み付けてくれることに深く感謝する」とある。この「深く感謝(本文では「深謝」と傍線部の「尊貴」が意味上で対応している(きわめて尊いからこそ深い感謝につながるのである)。よって正解はdである。上智大学で頻出の、「後ろの言い換え部分を理由として答えることを要求する設問」であろう。「言い換えは理由として機能する」のである。aは「男と女がめぐり合う～神秘的」が本文に書かれていない内容で×、bも「それに耐えること

で神聖さが宿る」、cも「半人～どうしが営む謙虚なもの」がそれぞれ書かれていない内容でx。

問三

傍線部3の理由は直後の文にある。直後の文意は、“ひとたび恋愛の真旨の一端とその神聖尊貴を知ったならば、他の仁義道徳は自ずと発明することができる”となる。つまり、恋愛の真の意味や尊貴を知ったなら、他の道徳などは自然と得られるから、恋愛の真旨を理解させることが人類教育の第一義なのである。この内容に最も近いのはaであり、これが正解。bは7行目にあるが、傍線部3の理由ではない。その前文の理由であり、設問に応答していない。cは「古い道徳を乗り越えて」がx。dは「教育の基本である他人を尊ぶ力」が本文に書かれていない内容でx。

問四

傍線部4直後に「枝葉末節に走り、かえってその根幹を忘れてしまう」とあるので、正解はbである。aは「才能の芽を摘んでしまっている」が本文に書かれていない内容なのでx。cの「仁義道徳」は9行目にあるが、続く「伝統的な価値観が欠落している」は本文に書かれておらずx。dの「恋愛が含みもつ罪意識」は、似た表記が本文11行目にあるが、意味は「(本来は重要なものであると教えなければならない)恋愛を、恥じるべき罪悪として教えている」ということであり、dのように「教育に恋愛が含みもつ罪意識への理解がない」という内容とは異なるのでx。

問五

設問にある「道徳先生は、ではどのようにすべきか」は本文26行目「道徳先生の職分なることを。」で終わる一文に書かれている。「道徳先生のすべきこと＝道徳先生の職分」ということである。それは「教育の第一義として、恋愛を大切なものと教えて恋愛の気分を高める(＝高調)こと」である。よって正解はdである。aにある「失敗」は27行目にあるが、本文では「学生が恋愛に失敗するのは結局無教育の結果だ」という意味であって、aのように失敗した学生に「同情を寄せる」ということではないのでx。またbのように直接具体的に学生を助ける、という表記は本文にはないのでこれもx。cは25行目より「恋愛の自由を広めるには、まず恋愛の気運を高めるべき」とあるので、c「恋愛の自由を広める」ことよりもd「恋愛の気運を高めること」が優先なのだからcはdより劣るのでx。

問六

「海老茶袴」は明治時代の女学生が用いた制服の事なので、正解はeである。この知識がなくても傍線部のある段落には「恋愛」「教育」「先生」といった言葉があるので「学生」のことであると読み取りたい。そして傍線部直前に「金釦(ボタン)」とあり、ここから男子の「学生服」を思い浮かべられれば、e「女学生」が選べるはず。

問七

本文30～37行目「公等試に思へ、」以降をヒントにする。30～35行目で「互いに愛し合っていたとしても、お互いにまだ理想の存在ではない」といったあと、35～37行目「現実の妻、夫は理想の存在ではないのだから結婚後も『半人』を求めて自己の向上発展を成就し新境地に進むことができるのだ」と続い

ている。この内容に最も近いのはcでこれが正解。aは「新たな試練の始まり」が不十分で×。その「試練」の内容がcなのだからcのほうがより詳しい説明になっており、aはcよりも劣る。bは「老境に至ってはじめて完成する」が書かれていない内容なので×。dは「理想の存在ではない」ことを「性格の不一致」としている点で×。

問八

傍線部8は、「恋愛は永生の目的であり、死んでも終わらない事業である」となる。同内容は、40行目に書かれている。その内容がaと合致するので、正解はaである。bは「継続させてゆけば」が本文から読み取れない。cは、「逆に」が×。本文では「尚ほ常に」である。dは42、43行目の内容と矛盾するので×。「恋愛」は「道徳や宗教に匹敵する」のではなく、最も大切なもの(問十「画竜点睛を欠く」の説明参照)なのである。

問九

傍線部9直後の38、39行目に「恋愛の自由、再嫁再婚を拒絶してはいけない」と書かれているので、傍線部「貞淑な女性が二人の夫に仕える(=再婚する)」ことを筆者は否定していないことを読み取るべき。また「幽玄」には「趣が奥深くはかりしれない」という意味があり、この「はかりしれない」に筆者の「貞淑な女性が二人の夫に仕えないのは理想ではあるが、良い、とだけ言い切ることもまたできない」という思いが込められているのである。よって正解はbである。bの「理想的ではあるが疑問にも思う」に先述した筆者の思いが込められていると気づきたい。aとcは「幽玄(はかりしれない)」の意味が出ていないし39行目「再嫁再婚を拒絶してはならない」に反するので×。dの「会う」では「結婚」の説明にならないし「慎重すぎて不思議」も書かれていない内容で×。

問十

上智大学を受験する生徒ならば、傍線部から「画竜点睛を欠く」という故事成句が頭に浮かばなければならぬ。意味は「物事を立派に完成させるための最後の仕上げを忘れること。または、全体を引き立たせる最も肝心なところが抜けていること」である。傍線部を含む文全体をみると「恋愛を除外して、宗教、道徳、社会改革、世界平和を説いても、画竜点睛を欠く」という意味になるので、ここでは「恋愛という最も肝心なものが抜けている」という意味であるとするべき。よって、正解はdである。dの「眼目」とは「最も重要な点」のことである。

三

※説明の際は本文全体を通しての行数で「○行目」というように説明箇所を示していく。この大問三本文は全 57 行となっている。

問一

傍線部 1 中の「史料の物質性に規定される」に注目。その「規定のされ方」において「史料＝文学」なのだ、と筆者は言っている。選択肢を見ると、a の「扱われ方」は「物質的」「規定」ととれる表現なので正解候補とする。b は「高度に修辭的な表現」が「物質性」と矛盾する(「表現」は内容面の話である)ので×。c 「作成者が書きたかったことが書かれておらず」、d 「つねに災害などによって消失の危険にさらされている」が本文からは読み取れない、書かれていない内容なので×。正解はやはり a である。

問二

傍線部 2 直前の 8 行目に「事実なるものは虚構の後に——つまり語る、書くことの後に」とある。つまり、「虚構の虚構」とは「語る、書く」のあとに「事実」が意識される、ということである。これで b と d に絞られる。d は、「事実の認識を深め」が×。虚構は事実の認識を深めていない。a は「技術」、c は「表現」という狭い視点に絞ってしまっている点でも誤り。したがって正解は b。

問三

傍線部 3 の端的な説明は、傍線部の直後 19～24 行目の具体例(野球、相撲、舞台、母)を挟んで 25 行目「つまり」以降に「他者として自己を見出す」と書かれている。この内容に最も近いのは c でこれが正解。c 前半の「母」の例も 23、24 行目にそのまま書かれている。a は「意識的に相手を苦しめるような行為は見られない」が 37～39 行目に矛盾するので×、b は「限定的」が×。「スポーツ観戦、舞台芸術、芝居小屋」は 19～22 行目にある通り一例として示しているだけであり、それだけに「限定」するものとして書かれているわけではない。d 「ヘーゲルの言葉」はあくまで「逆説」(37 行目)を説明するためのものであるから×。「逆説」ではない通常の説明がされている選択肢 c があるのだからそちらを優先すべき。

問四

傍線部 4 の「視点」は直後の 43～46 行目に例を用いて説明されている。そのなかに「監督の視点」があり、これがすべての選択肢に共通する「指導者」にあたるものである。つまり、この視点が「指導者」に限定される(=a と c)か、限定されない(=b と d)かで、2 つに絞られる。45、46 行目に「人間はすべてつねにそういう視点をはじめから確保している」とあるので、正解は b か d である。さらに傍線部の直前 40、41 行目に「重要な帰結は～相手と自分の双方を眺めうる視点」とあるので、正解は b に決まる。d のように「遠方」かどうか、「大勢」かどうかは、b ほど「重要」ではない視点と判断できる。やはり正解は b である。

問五

傍線部 5 の直後の段落 54、55 行目に「だがおそらく、人間以外の動物にあっては、この能力は対象化されてはいない」とあり、その「人間以外の動物」の例が 53、54 行目なのだから、その例に該当してしまう a「肉食動物～」と c「鷹が兎を追う～」は×。これで b か d に絞られる。さらに 55、56 行目「つまり、ただ純粹に他人に成り替わる～人間だけしかしない」に着目できれば正解は b と判断できる。d は「身体動作を～美しく整える」という狭く、部分的な視点に絞ってしまっている点で誤り。正解は b である。

問六

a は「科学は語ること書くこととは無関係」が 8～10 行目に矛盾しており×。b は本文中に書かれていない内容なので×。23、24 行目に「人は、自分の身になって～自分なるものを形成する」と書かれているからと言って、勝手な思い込みで「では、人間と異なる動物は、きっと母を見習って自分を形成することもないだろうし、相手の身になって行動することもないだろう」と想像してはいけない。本文に書かれていない内容は不正解である。c は「人も動物も～他者に成り替わることそのものを楽しむ」が 55～57 行目に矛盾するので×。d は 35、36 行目にほぼそのまま書かれており、これが正解。

問七

文学史の問題。小林秀雄の著書は a の「様々なる意匠」。正解は a。b「愛と認識との出発」は倉田百三、c「自然主義盛衰史」は正宗白鳥、d「言語にとって美とはなにか」は吉本隆明。

その他の大学・学部の解答解説はコチラ！

増田塾 2019 解答速報ホームページ 

早慶上智・GMARCH・関関同立などをはじめとした難関大学の解答解説を随時公開していきます！